



vol.
153

今月のお題

「天プラ謹製宇宙図メソッド」

宇宙図を作った時のノウハウを活かして、シミュレーション科学を俯瞰するポスター作りに挑戦します。

高梨直紘 (東京大学) / 平松正顕 (国立天文台子リ観測所)

一家に1枚宇宙図2007の制作からはや10年。この間、解説本、プラネタリウム番組、天文学講座と、さまざまに活用してきました。天文学が対象とする宇宙の姿を、1枚のポスターの中に綺麗にぎゅっと詰め込んで見せたことが、それまでにあったさまざまな宇宙の図との大きな違いだったのではないかと思います。いまだにいろいろな引き合いをいただくのも、この宇宙図の宇宙を俯瞰する視点の提示という発想がユニークであったためかな、と考えています。

天文学分野の知を構造化し、俯瞰して見せるという方法論は、その後も宇宙図制作委員会の有志で企画した科学ポスターである「太陽系図」や「光図」を作成する際にも応用されました。これらのポスターでは宇宙図よりも一歩先に進んで、いわゆる天文学分野の知をまとめ上げるだけでなく、意識的に哲学や思想など天文学に隣接する分野の知を統合化

していくことに挑戦していました。

このような知の構造化の方法論を、他の分野にも応用できないか。そんなことを考えていたときに、シミュレーション科学をテーマにしたポスターを作らないか、というお誘いをいただきました。シミュレーション。天文学分野でももちろんよく出てくることばですし、日常的にも聞く機会も多いことばのひとつでしょう。でも、いざその意味を考えてみると、これが意外と捉えがたいのです。

例えば、戦国武将や飛行機のパイロットになれるシミュレーションゲーム。育成、恋愛シミュレーションゲーム。銀行に行けば住宅ローンのシミュレーション、サッカーの試合を見に行けばゴール前でのシミュレーション。シミュレーションの本質をずばりと言い当てて、その概念の全体像を俯瞰するには、いったいどこから語り始めるのが良いのでしょうか。

誰も答えを知らない問題に当たると



少人数でじっくり話し合った公開制作会議。小学生も参加してくれて、とても勉強になりました！

きには、みんなで知恵を出し合うのが良い。これは私たちが宇宙図の制作を通して学んだことのひとつです。今回もこのポリシーに従って、企画会議を対話型の公開イベントとして行っています。制作メンバーとは違った視点から世界を見ている皆さんとのやりとりを通じて、全体像を掴んでいく。この方法がどこまで有効なのかはまだよくわかりませんが、天プラの活動から産み出した方法論として、可能性を追求してみたいと思います。